

鳥獣保護管理捕獲コーディネーター

青木 豊

一般財団法人自然環境研究センター

《東京都第002号認定鳥獣捕獲等事業者》

対象鳥獣
ニホンジカ

活動地域
群馬県

事業内容

平成30年度指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画に基づくニホンジカの捕獲

事業の背景

群馬県赤城地区（※1）では、以前からドリフト式、誘引式、輪採式など、独自の工夫で捕獲効率を高めてきていたが、毎年の高い捕獲圧により警戒心の高い個体が増え、捕獲効率や出合う機会が減少する傾向がみられるようになっていた。また、従来同地区における捕獲事業が捕獲手法と捕獲実施場所により個別に発注されてきたことにより、目標捕獲数を達成することが困難であった。

依頼を受けて実施した内容

指定管理鳥獣捕獲等事業（赤城地区）に係る公募型プロポーザル（※2）において、捕獲目標達成のための創意工夫を企画提案した。

事業の成果

業務の統合と従来の捕獲方法の改良を行うことで、約280日間の作業期間中のうち約180日間で目標頭数160頭の捕獲に成功した。

事業の成果

昨年度の事業報告書において作業日数の増加と作業範囲の拡大など、次年度捕獲方法に関する提案をしたところ、今回の公募型プロポーザルでは従来3つに分割されて発注されていた業務が1本化された。これにより、赤城山全域において計画的に捕獲することができた。同時に、間接経費を大幅に削減することが可能となり、その分直接経費を拡充し、従来60から90基のわなの運用にとどまっていたが、180基まで増やすことが可能となったことで、捕獲頭数を従来の100頭程度から増加させるとともに達成までの日数を短縮することができた。



写真1 室内におけるわなの凍結実験



写真2 凍結したわな

捕獲方法の改良においては、積雪期における凍結によるわなの動作不良に対する凍結防止加工を開発することで、捕獲頭数を増やすことが可能となった。さらに、銃器による捕獲では、従事者のスキルアップが肝心であり、事業継続による同地における二ホンジカの行動様式の把握や効率的な作業の進め方などの経験値が増加するとともに、日頃からの練習により、命中率が向上することで、一般狩猟における捕獲効率よりも高い捕獲効率を上げることができた。

※1 群馬県赤城地区

ここでは、群馬県が指定管理鳥獣捕獲等事業（赤城地区）を実施する赤城山鳥獣保護区及び東大 河原鳥獣保護区を指す。

※2 公募型プロポーザル

平成30年5月に群馬県が実施したもので、複数の認定鳥獣捕獲等事業者から企画提案書の提出があり審査の結果、筆者の所属する（一財）自然環境研究センターが優先交渉者に決定し、契約の上、同地区の捕獲業務を担当することとなった。